

会津坂下町立坂下南小学校だより

「坂下っ子」

〇よく考え進んで学習する子ども 〇感動する気持ちを思いやりのある子ども 〇明るく健康でたくましい子ども



平成25年度 第14号

発行日 平成25年10月17日

発行者 学校長 滝沢 玲子

あいさつのできる幼稚園児・児童・生徒を目指して

5年生の稲刈りはもうすぐです。5年生はバケツにも稲を育てていました。バケツ稲に穂が出て、花が咲き、実を結んだ後、何匹もスズメが来て米を食べ、籾殻を落としていきました。「田んぼにはたくさん米ができているから、バケツ稲の米まで食べることはないだろう。」と少しスズメを恨めしく思いました。しかし、「おすそわけ」という言葉を思い出しました。「人がいただく前に、自然の中で暮らしている生き物にも実りをわけてあげる」という日本ならではの自然への心遣いを表す、美しい言葉です。スズメへの「おすそわけ」と考えると、何かとてもいいことをしているように思われました。

美しい言葉をもう一つ紹介します。2020年東京オリンピックが決まる前のお話で、滝川クリステルさんが「おもてなし」という言葉をつかいました。

「おもてなし」とは「来て頂く方々が気持ちよくすごせるように心遣いをする」という意味の言葉です。今週からずっと、小学校教育研究会授業公開、学習発表会、学校地域公開とたくさんの方々が坂下南小学校においでになります。鼓笛パレードと町陸上記録会には坂下東小学校の友達もやってきます。坂下南小学校に来て下さる方を「おもてなし」の心でお迎えする。とても素敵なことだと思います。みなさんができる「おもてなし」とは何か。それは、お客さまにしっかりあいさつや返事ができることだと思います。(10月7日全校朝の会校長講話より)

坂下南小学校では、あいさつは「明るく、いつも、先に、続けて」行うことにしていますが、実態は、「暗く、朝だけ、言われてから、注意されたとき」というようなあいさつがあり、決してあいさつが上手にできる学校にはなっていませんでした。

そこで、2学期からあいさつについて、次のような新たな取り組みを始めました。

○各学級であいさつ係を決めて、あいさつを先にする。

○各通学班で、あいさつ班長を決めて、あいさつ班長のあいさつに合わせて、みんなであいさつをする。

このような取り組みにより、以前より元気なあいさつを学校の中や校門で聞くことができるようになってきました。毎朝、2年生のあいさつ係の子ども達がたすきをつけて、校門のところで大きなあいさつをしています。登校班の子ども達も2年生に負けないくらいの大きなあいさつをしています。

また、最近何人かの地域の方に「〇〇地区の〇〇は、大きな声であいさつをしています」等の話を聞きました。地域の方や保護者の方にも普通にあいさつをする子どもが増えてきたように思えます。

先日全校朝の会で、「学校の中で、友達や先生方にするあいさつは前より元気でするようになりました。しかし、地域の方々へのあいさつはまだまだです。地域の方々にもあいさつ班長さんを先頭にしていさつをしましょう。」という話をしました。

これから、通学路で出合った人へのあいさつがしっかりとできるところまで、あいさつの範囲を拡げていきます。

保護者の方々と地域の皆様に坂下南小学校の子ども達のあいさつの状況について何回か調査します。大人と子ども、大人同士、子ども同士のあいさつが、自然にできる会津坂下町を目指して、幼稚園・小学校・中学校で一貫した取り組みを行っています。どうぞ、ご協力をお願いします。

大きな声で「おはようございます」

写真省略

お知らせ 11月8日(金)は学校地域公開

9:00~12:00 どうぞ、子どもの様子をご覧ください。

6 年化石採集と地層觀察

写真省略

心臓動いてる

地層の觀察

鼓笛パレードで地域の方々に演奏披露

写真省略

鼓笛パレード

町陸上記録会がんばる

1

写真省略

競いあう

